

未来志向を優先

問題婦安慰軍從

93 8/5

「日韓」改善へ政治判断

政府は四日、日韓間の懸案だった從軍慰安婦問題で、焦点の「強制性」を事実上認める最終調査結果を公表した。政府としては「一段落つた」と（外務省首脳）と受け止めており「過去の問題にとらわれず、懸案処理型外交」から、金泳三・韓国大統領との間で真の意味での「未来志向

韓国政府が

「評価」表明

【ソウル四日】黒田勝弘「韓国政府は四日、いわゆる從軍慰安婦問題に関する日本政府の調査結果発表について外務省スポークスマンの公式論評を発表し「全体的な強制性を認め、被害者に対する謝罪と反省の意とともに歴史の教訓にする」との決意を表明した点

明が不十分」と反発。政府「わる措置」を検討するとの基金創設など「補償に代」方針を打ち出したものの、

上坂 冬子氏（作家）

この七月末に政府が韓国に出向いて聞き取り調査を行ったのは、日本側の誠意を、不十分とする意見が出たこと、証言を取ったことにはなるまい。かとい

国家間交渉の区切りに

調査結果を認む限り、新しい事実が掘り起こされたといふわけでもない。しかし、事は六十一年前に始まった慰安所の問題である。事実追及について、これ以上の説明を求めるのは無理といふべきだろう。

韓国側は強制連行の事実を認めるよう強く主張。さらに調査を継続してきた。その後、金大統領が「物質的な補償を日本側に要求しない」との方針を表明したことで、政府はこの問題を早期に処理し新たな日韓関係を構築したい意向のあらわれ（政府筋）と判

は、くどいようだが国家間での交渉の打ち切りを含んでのことだと私は思っている。すでに、盧泰愚前大統領も、日本の国会で「過去夫を振り返って誰かをとがめたり、恨んだりはいらない」と述べておられるし、昭和四十年に日韓基本条約で両国間の権利は「完全かつ最終

りか、肝心な問題にこたえていないなどという反論は当然おきるだろうが、私としては政府の談話としてはこれが限度であろうと判断している。おそらくこの談話は国家間レベルでの区切りを意味するものとなるのではない。自民党内閣としての最終日にこの談話が出されたの

した政治判断があったのは背景には、①新政権が発足すれば、慰安婦問題の処理間違いない。また、非自民政権発足の

前日に調査結果を発表した背景には、①新政権が発足すれば、慰安婦問題の処理が遅れる恐れがある②非自民政権は戦争責任を国会決議などで明確にする方針を打ち出しており、展開した

政府は今回の調査結果公表で、「大きな区切りがついた」（同）として、金大統領の訪日準備を本格化する方針だ。

だが、元慰安婦からの聞き取り調査では、関係団体のひとつ「韓国挺身隊問題対策協議会」が拒否するなど、なお尾を引く可能性が残されており、補償問題が浮上して細川新政権が対応を誤れば、煮し返される可能性はある。